

事例 13 ボランティア団体や企業と連携した国有林の保全活動 (四国森林管理局 高知中部森林管理署)



- ・高知県香美市 別府山国有林
- ・(左) 取組前の打合せの様子(令和7(2025)年6月)
- ・(中) ボランティアによる防護柵設置(令和7(2025)年10月)
- ・(右) 大型ドローンによる資材運搬(令和7(2025)年10月)

高知中部森林管理署では、三嶺・白髪山周辺においてニホンジカの食害による樹木の枯死や植生の衰退、表土の流出が進行していることから、地元自治体や地域住民・自然保護団体等で構成される「三嶺の森をまもるみんなの会」と連携し、継続的に食害対策を講じています。

この取組では、ブナやモミ等の天然林やササ類等の地表植生を食害から守るため、防護柵の設置・補修、現地の巡視や被害状況の確認、植生の回復状況の把握等の保全活動を共同で行っています。

一方で、山地での資材運搬はボランティア参加者等の大きな負担となっていました。そこで、令和7(2025)年度は、企業の協力を得て、資材搬入(防護柵資材約250kg)に大型ドローンを活用することで、作業負担が大幅に軽減しました。

同署では、今後も地域や企業と連携した森林の保全活動を進めていくこととしています。